

YOKOHAMA ビーチバレー2007 競技規則

施設と用具

1. コート

コートは1.6m×8mの長方形であって両エンドライン側はその外方に最小限5m以内、両サイドライン側はその外方に最小限3m以内とコート面から上方最低限1.2.5m以内には、いっさいの障害物があってはならない。

コートは平坦な砂地に、帯状のテープで区画する。このテープはコート内に含まれ、色は砂地で明瞭に区別できる色でなくてはならない。

2. ネットの高さ

ネットの高さは、各種別によって以下のようにする。

・青年	男子	2m35cm
	女子	2m15cm
・男女ミックス		2m30cm
・少年	男子	2m30cm
	女子	2m10cm

3. ボール

ボールは、F.I.V.B.(国際バレーボール連盟)で公認された、ミカサビーチバレーボール(ミカサVLS 200)を使用する。(人工皮革のバックスキン、円周は65~67cm、重量260~280g)

競技方法

本大会はすべてトーナメント戦とし、21点1セットマッチ、ラリーポイント制とする。全ての種別3位決定戦は行わない。

競技者

1. チームの構成は、各種別によって以下のようにする。

・青年	男子	2名1組
	女子	2名1組
・男女ミックス		4名1組
・少年	男子	2名1組
	女子	2名1組

この構成メンバーは、その試合の最初のサービス後は交代することはできない。

2. ユニフォーム

競技者のユニフォームは各チームで用意する。

試合準備と進行

1. チームのウォーミングアップ

試合開始前に、公式練習は行わない。

2. 競技の中断

タイムアウト

各チームは、1セットにつき2回のタイムアウトが認められる。なお、このタイムアウトは1回につき30秒とする。(2回分まとめて1分とすることも可)

3. コートの交替

両チームの得点合計が10点の倍数になる度に、コートを交替する。

4. 競技者が負傷した場合

試合中、競技者が負傷した場合は、1回だけ3分のタイムアウトが与えられる。もし、負傷した競技者が3分を過ぎても回復しない場合は、そのチームは、不完全なチームと宣告される。

得点及び勝敗

1. ラリーポイント制

サービス権の有無に関係なく、そのラリーに

打ち勝ったり、相手チームが反則を犯した場合得点を得る。

2. 相手チームに対して、最初に21点を得たチームがその試合の勝者となる。ジュース(20:20)になった場合も21点を先取したチームを勝者とする。

青年男女の決勝については、21点ラリーポイント制でジュースになったら2点差がつくまで続けられる。

3. もしチームが負傷者などで不完全なチームと宣告された場合には、相手チームがその試合の勝者となるために必要な点数が与えられ、失格となったチームは、それまでに得た得点が記録される。

プレー上の動作と反則

1. サービス

サービスは、エンドライン後方のサービスゾーン内から、打たなければならない。その際、動いてもジャンプしても良い。

サービスは、相手チームにサービス権が移行するまで、同じ競技者が続けて打たなければならない。又、サービス権を得る度に、サービスは交互

に交代して打たなければならない。サービス順の誤りは、相手チームの得点となる。(サービス順の誤りは事前に記録員が指摘する。)

サービスの試技は認められない。

サービスがネット上端部に触れて相手方コートに入ることは許される。(ネットインサービス有効)

2. ボールへの接触

打球許容回数

1チームは、ネットを越して相手のチームに打ち返すために最大限3回プレーすることができる。(ブロックはワンカウントする。)

ボールは、ヒットしなければならない。接触中、明らかにボールが止まる様なプレーは反則になる。

ボールは身体の中のどの部分に当たってもよい。

同時の接触

もし、同一チームの2人の競技者が同時にボールに触れた時は、2回触れたものとみなされる。この場合、2人のどちらかが続けてそのボールをプレーすることができる。

3. ネット下から相手コートへの侵入

ネット下からの相手コートへの侵入は、相手競技者に触れたり、プレーを妨害しない限り反則とならない。

4. アタックヒット

2人(4人)の競技者は、どの位置にいる時でもボールを打った瞬間にボールが見方コート上にあればどんな高さのアタックヒットでも行なうことができる。

但し、アタックヒットを行なう場合には明らかにヒットするか、アンダーハンドで返すプレーでなければならない。指を用いたオーバーハンドプレーでの返球は、体の向いている方向でなければならない。押し出すようなプレー、押しえ付けようなプレー(例えばタッチプレーやフェイントプレー)は反則となる。(但し、ミックスに関してはこの限りではない)

5. ブロック

2人(4人)の競技者は、どの位置にいる時でも、相手のアタックヒットの後ならば、ブロックすることができる。ブロックした競技者は、ブロックした後、そのボールを連続してプレーすることができるが、そのチームの2回目の接触となる。

ブロックによる接触はチーム1回目の打球になるのであと2回以内で相手チームに返球しなければならない。